

令和6年度重点プロジェクト事業 スポーツや武道を通じた国際交流を図り、スポーツや武道の 学術的・文化的価値を世界に発信ができる人材の基礎力養成



国立大学法人
鹿屋体育大学
National Institute of
Fitness and Sports in KANOYA

◆ グローバル化推進支援経費 ◆ 事業代表者：国重 徹（国際交流センター長）

◆本事業の目的と概要

NEXT30の国際化のビジョンである「スポーツや武道を通じた国際交流を図り、それらの学術的・文化的価値を世界に発信ができる人材」の基礎力を養成する目的で、以下の事業を行う。

- 1)異文化理解と英語コミュニケーション力を向上させるための勉強会
- 2)海外での異文化体験や、留学準備、英語などの外国語の勉強方法などをシェアし合う「留学フェア」

◆令和6年度の活動内容

限定採択となり人件費のみの配分であったため、主にプロジェクト代表者が概要に示した事業のうち、1)異文化理解と英語コミュニケーション力を向上させるための勉強会(述べ180回)を実施した。また、2)は、7月18日に卒業生を招いて1回実施(支出は国際交流センター経費より)。また留学フェアの進化形として、令和6年度当初より新たにに取り組む必要の出てきたJICA海外協力隊の連携派遣の応募と1回目の派遣に向けた事前指導、打ち合わせなどを、国際交流センター経費、プロジェクト代表者の教育研究費を用いて実施し、年度末に1回目の派遣を実現した。さらに、スポーツや武道を通じた留学生と日本人学生の交流会(1回)を行なった。特任専門員は、これらの事業の計画、準備、実施、渉外、広報、会計、参加者の募集、評価、成果のまとめと発表、その他各事業に関わる事務処理全般を担った。

◆活動の成果①

異文化理解と英語コミュニケーション力を向上させるための勉強会を実施

本事業の目的と概要1)について、プロジェクト代表者がその実施内容や方法、成果について、日本多読学会関西多読指導者セミナーで発表した(令和7年2月16日)。発表の内容は以下の通り。

a. 授業内多読:授業内15分～20分+授業外多読を実施。授業の評価にも加味。2024年度後期は、平均語数73,765語、平均冊数77冊を読了。

【効果】ストーリーを読むのが楽しく、好きになる。英語に対する抵抗が減少。1冊の本が読めて、徐々に英語に対する自信が増加。多読を通して英米文化を学ぶことができる。

b. マンツーマン英語指導:全学オリエンテーション、授業で案内。多読をベースにし、学生の目的(海外スポーツ関連留学、TOEIC対策、英語運用力の向上など)に合わせた個別のレッスンを実施。希望者は予約。週1回(約30分)。内容は、レッスン+多読の確認と貸し出し、次回の予約を行う。口コミで学生が増加し1週間に約20人に対し実施した。→

→【効果】英会話力向上、TOEICスコアアップ(200点～400点アップ)。長期継続者はスコアの伸び顕著(700点越えが普通、800点、900点越えも)。
具体例:Aさん:5ヶ月でスコア365 → 675 → 720
(その間多読で40万語読破)

◆活動の成果②

逢甲大学(台湾)の学生と、本学学生との交流イベントを実施

本事業の目的と概要2)や、スポーツや武道を通じた留学生と日本人学生の交流会(1回)として、令和7年1月21日に台湾の逢甲大学で日本語を学ぶ学生と本学学生との交流イベントを、鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター(カピックセンター)と協同で実施した。両学の学生がスポーツを通して交流を深め、言葉の壁を越えたコミュニケーションを促進し、グローバルな視座を養う契機となった。



【グループに分かれて交流を深める参加者】



【玉入れ競技の様子】

◆活動の成果③

JICA(国際協力機構)海外協力隊連携派遣に関する覚書を締結し、同覚書に基づく第1回目の派遣を実施

JICA海外協力隊連携派遣に関する覚書を締結し、令和7年1月10日に署名式を執り行った。また、本覚書に基づき令和7年2月から3月の1か月間にわたり、柔道部員2名を短期隊員としてペルー共和国に派遣した。また、学内・学外への活動報告会を令和7年7月3日に実施した。



【調印式の様子】



【JICAペルー事務所前で
左から山縣住雄氏(引率者)、岡野
佐弥香さん、原田菜々子さん】

◆今後の事業の展望

今後も、スポーツや武道を通じた国際交流を図り、それらの学術的・文化的価値を世界に発信ができる人材の基礎力を養成する事業を継続的に行う。特に、JICA海外協力隊の連携派遣の応募と実施については、今後2年間、ペルー共和国に柔道部員を派遣する予定である。